三角小学校シンボルツリー「大王松」　校訓「明るく 賢く 健やかに」　HPQR コード

まつぼっくり

宇城市立三角小学校
学校だより 第10号
文責 校長 西村羊治
令和8年5月1日

学校教育目標「主体的に学び合い、達成の喜びを自信に変え、ふるさとを誇りに思う児童の育成」

好きこそものの上手なれ

全校授業

５月初日の１時間目、全校児童が体育館に集まりました。１年生から６年生まで全員での国語の授業です。教材は工藤直子さんの詩「ねがいごと」です。学習の目標は「繰り返される言葉に着目し、表現の工夫について吟味することを通して、詩を味わうことができる。」です。

私が８：２８分に体育館に入ると１１９人のみんなが一斉に「おはようございます！」と明るく溌剌とした伝わるすばらしいあいさつを私にしてくれました。本当にすばらしい子どもたちです。時間を守り、相手意識を持ったあいさつができる。三角小学校の子は一人一人みんながすばらしいです。その子たちを育ててくださった保護者の方もすばらしいし、日頃から愛情いっぱいで関わっている本校の全職員もすばらしいです。

児童同士の対話
帽子の色で考えの違いがわかります

授業における「対話」の研究を深める目的で、研究主任である本村教諭の授業が早速始まりました。しかし、プレゼンテーションを表示していたプロジェクターのあかりが突然消えてしまいました。授業ができません。しかし、臨機応変に対応できる本校職員チームです。すぐ他の先生が近くの教室からプロジェクターを持ってきてくださり、すぐ対応できました。想定外のことが起こったときに、協力しながら対応していくことは立派な生きる力です。このことからも子どもたちは大きな学びができました。いろいろなことやものを教材に変えてしまう。教えることが仕事である我々教員は教えることのプロです。このプロ意識を持って日々対応します。

異学年対話

授業の方に内容を戻すと、今回「ねがいごと」という詩には、「あいたくて」の言葉が４回繰り返されています。そのことを踏まえて、児童の知的好奇心をくすぐる発問を意図的に盛り込み、子どもの思考を深めさせ自分の考えを持たせます。そして、考えの同じ人や違う人との「対話」に移ります。対話は普段同じクラスの人としますが、今回は異学年とできます。そして、自分が話せる、聴くことができるので自分が主役です。形式的な対話ではなく、日頃のコミュニケーションにつながる生きた対話です。子どもからは、笑顔と達成感と成就感がにじみ出ていました。発表も全学年の子が挙手し、全校児童の前で自然体で行っていました。参観していて時間があっという間でした。最後に子どもたちに聴いてみました。「授業は楽しかったですか？」と、ほとんどの子が手を挙げました。教師が楽しんで授業を行うと子どももちろん楽しめます。この様な授業を繰り返していくと、子どもは勉強が好きになります。好きになると主体的に勉強します。勉強すると学力がつきます。学力がつくと本当の生きる力に幅が出てきます。「好きこそものの上手なれ」です。勉強の楽しみを教えること、教師の醍醐味です！

堂々と発表